

Ⅲ 事務部門 評価実施概要

1 評価の目的

各運用単位における自主的かつ自律的な改善・改革活動を支援することを目的とする。また、2012年度に公益財団法人大学基準協会より受審した認証評価結果を受け、その指摘事項への対応状況の確認を行う。

2 評価対象

法政大学自己点検委員会規程別表（第2条関係）に定める「適用範囲及び各運用単位」

3 評価体制

大学評価委員会に、事務部会1部会を設置した。主査は大学評価委員会委員、副査は大学評価委員会規程第7条に基づき委嘱された評価員が務めた。

4 評価方法

人事部に提出された2012年度目標の達成状況および2013年度目標について評価した。評価の視点は次の通りである。

(1) 2012年度目標の達成状況

- a 目標達成に向けた努力を行なっているか。
- b 目標を達成し、質が向上しているか。

(2) 2013年度目標

- a 目標はミッション・ビジョン・各種方針と整合しているか。
- b 目標は具体的なアウトカムが明確になっており、検証可能か。

(3) 認証評価における指摘事項への対応状況

- a 昨年度認証評価結果の努力課題及び総評において指摘を受けた全学として改善が望まれる事項について、2013年度目標に反映されているか。

5 評価経過

2013年5月11日	第1回大学評価委員会 評価計画策定
2013年5月15日	常務理事会 大学評価計画および評価の実施を承認
2013年7月16日～27日	大学評価報告書（部会案）に対する意見申し立て期間
2013年8月3日	第2回大学評価委員会 大学評価報告書（事務部門）承認
2013年8月5日～12日	大学評価報告書に対する異議申し立て期間
2013年9月4日	常務理事会 大学評価報告書（事務部門）了承

6 大学評価委員会事務部会

大学評価委員会委員	吉野 政美	監査室長
評価員	今村 公勇	総務部総務課長
	細田 泰博	学務部学部事務課長
	蛸島慎一郎	多摩事務部現代福祉学部事務課長
	志田 成也	研究開発センター市ヶ谷事務課長

IV 事務部門 評価結果

2013年8月3日

事務部門の評価について

大学評価委員 吉野 政美（監査室長）

各事務局の部課目標はそれまで、人事部に提出するものと大学評価室に提出するものと二つに分かれていた。人事部に提出する部課目標は「目標設定による業務遂行目標の明確化」と「コミュニケーションツールを提供し、部局内の信頼感の醸成を図る」ことを目的としたものであった。一方、大学評価室に提出するものは、認証評価機関の評価基準に基づいた自己点検のためのものであった。

これを2012年度より、かたちとしては人事部の目標管理制度に一本化し、事務部門の大学評価はそれを活用するということになり、内容としては、大学の「ミッション・ビジョン実現のための業務の貢献度を自己分析するとともに、そのアウトカムを客観化し公表すること」となった。人事部の目標管理制度が自己評価だけであったのに対し、大学評価委員会による独立した評価が加えられることになったわけである。

「法政大学のビジョン主要項目—あるべき姿と定量的目標」を作成した目的は事務部門としては、「事務組織の方向性を一つにし、その方向性に沿って業務や施策の適切性を検証し、業務改善や、新たな施策の策定、業務の効率化を推進するため」であり、2012年度から取り組まれている。

具体的な評価のポイントとしては、「2012年度目標の達成状況に関する所見」として、目標達成に向けた努力を行っているか、目標を達成して質が向上しているか、という観点から評価し、「2013年度目標に関する所見」については、目標がミッション・ビジョン・各種方針と整合しているか、目標は具体的なアウトカムが明確になっていて検証可能か、ということで評価した。また今回は「認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見」として、昨年度の認証評価結果の「努力課題」と「改善が望まれる指摘事項」が目標に反映されているか、が追加された。

2013年度からは、「法政大学のビジョン主要項目—あるべき姿と定量的目標」に基づく点は同じであるが、目標をセグメントに分けて設定することになった。ビジョン主要項目の定量的目標に即したもの（Aセグメント）、主要項目のあるべき姿に貢献可能なもの（Bセグメント）、事務組織の基本方針に貢献できるもの（Cセグメント）、部局として必要と判断したもの（Dセグメント）、というように分けられている。さらに、このセグメント分けは予算編成にも反映され、大学の目標と具体的な事業実施が一貫したものとなっている。

このように目標管理制度は改善されてきたわけであるが、各部局の目標設定から年度末報告の書き方、評価委員会の評価の仕方はまだまだ発展途上にある。今後の積み重ねによって、目標管理制度と自己点検・評価が大学の「あるべき姿」へ一歩ずつ近づいていくことを願っている。

以上

総長室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
多岐にわたる目標に対し、概ね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。 目標 2 「ビジョン実現達成のための各施策の検討、実施」について、大学のビジョン主要項目の定量的目標設定に対し、それらに関する事業を政策的重点事業として制度化し、予算化したことはおおいに評価できる。 目標 10 「大学公式ウェブサイトのスマートフォン閲覧」について、ホームページをスマートフォンにも対応可能とし、絶えず情報発信の強化に努めていることは評価できる。
2013 年度目標に関する所見
2012 年度の目標達成状況を受けて、2013 年度の目標が掲げられており、全体として適切である。 Aセグメントの目標 4 「イメージ戦略を確定する。」と目標 5 「昨年度仮定された、イメージ戦略を実行する。」は整合性がないのではないか。仮定されたものではなく、確定したイメージ戦略の実行を検討することが必要ではないか。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
認証評価における指摘に対し、その改善に向け明確な目標が掲げられており、適切である。
総評
大学のビジョン実現達成に向けた継続的な取り組みがなされていることはおおいに評価できる。 広報については、イメージ戦略やブランド戦略を目標に掲げ、広報活動の強化に向けた取り組みがなされていることはおおいに評価できる。

大学評価室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
各目標に対し、概ね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。 一方、各目標に対し、年度末報告において、達成度評価の記述が見当たらない。 目標 2 「公益財団法人大学基準協会からの『大学評価』受審』について、大学評価結果である「適合」の認定および「改善勧告」0 件はおおいに評価できるが、「努力課題」11 件については、課題達成に向けた取り組みが必要と思われる。 目標 4 「付属校における自己点検評価実施支援」について、積極的な支援・情報提供を行った結果、統一フォーマットによる学校評価の公表およびその実施要項が承認されたことは、おおいに評価できる。
2013 年度目標に関する所見
2012 年度の目標達成状況を受けて、2013 年度の目標が掲げられており、全体として適切である。 Aセグメントの目標 1 「各種データの大学経営戦略への活用」において、「学生による授業改善アンケート」データや「新入生・卒業生アンケート」データのさらなる有効活用が述べられており、アンケート集計結果を基に学生の満足度向上につながる新たな取り組みが行われることを期待する。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
認証評価における指摘に対し、その改善に向け明確な目標が掲げられており、適切である。
総評
本学の内部質保証支援について継続的な取り組みがなされていることはおおいに評価できる。 こうした取り組みの成果が各部局に反映され、教育研究および教育支援サービスの質向上につながることを期待する。

関連会社統括事務室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
各目標に対し、概ね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。 目標 1 「内部統制強化と経営の健全化の確立」において、既存の経理処理を整理し、従来まで商品の棚

卸を決算期首・期末のみ実施していたものを月次処理に変更し、月次損益に反映を行うことができるように改めたことは評価できる。また、給与規程および家族手当支給細則の制定並びにそれに伴う就業規則の一部変更を実施するなど、諸規程を整備、拡充していることは評価できる。

目標2(1)「大学からの受注内容に対し、事業部内の異なる担当間でも遺漏なく情報共有し、エイチ・ユー一体とした支援を行える体制を構築する」において、年度末報告で「月次営業報告会議にて、各事業の受注、進捗状況を情報共有する事を行うようにしたが、有機的に受注にまで発展は行っていない」となっているが、「有機的に受注にまで発展」とは記述が曖昧なので、より具体的に記述する必要があるのではないか。

2013年度目標に関する所見

2012年度の目標達成状況を受けて、2013年度の目標が掲げられており、全体として適切である。

「エイチ・ユー一体として支援を行える体制を構築する」に関する目標が見受けられない。2012年度達成度が目標を大きく下回っており、再度検討することが必要ではないか。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

本学の関連会社について、より一層の内部統制強化と経営の健全化の確立および品質・サービスの向上が図られることを期待する。

法人本部

総務部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>大学全体を総覧できる立場において、規程の整備から危機管理までの広範囲から課題を洗い出し、具体的な目標設定を行ったことは評価できる。特に防災関連については難易度の高い目標を達成できたことは大いに評価したい。</p> <p>また前年度の「所見」で「早急に解決を」と課題にされた統括本部長制度の見直しについて完了させたことも、その手続き方法も含めて適切な業務の遂行をしたと言えよう。</p> <p>ただし一方で、副学長制度の検討との兼ね合いがあるにせよ、大きな法人意思決定の仕組みである役員体制の見直しについて進捗していないことは、今後の重要な政策の決定に関わることから問題がある。他部局での検討を待つべきところもあろうが、検討スケジュールの管理を行うなど、総務部としての責任部分を明らかにし、その部分を積極的に進めることが望まれる。</p> <p>2013 年度には、当年度で未達成となった当事項や学内諸規程の見直し、情報セキュリティ・ポリシーの施行について経過および達成度の報告を求めたい。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>前年度に未達成であった役員体制の見直しについては目標設定がないが、役員改選年度として今回見送ったのであればこの先どのような展望であるのか、総長室プロジェクトの結論が出た際どのように対応するかの記事が欲しい。</p> <p>「学内諸規程の整備」に関し、前年度に途中まで進んだもの（文書作成基準など）の継続性が目標設定から読み取りにくい、他大学事例の調査など前年度の実績を活かして臨んでもらいたい。</p> <p>全体的には、上記部分を含めても、目標達成へのプロセスまで記述されているなど、設定の手順は適切であると言える。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
<p>「社会連携・社会貢献」に関して「体制を構築する」とあるが、具体的な手段や内容が明らかでない。検討・提案・施行のスキームを示す、または今年度はどの段階を進めるつもりかなどの記述が必要である。</p>
総評
<p>各設定については手堅い印象を受けるが、実行までのプロセスも記述されており、目標設定の手順としては適切である。そのうえで、総務部には学校法人を俯瞰して検証・提言をしていく任をも求められると考える。今回の目標が達成されたのちは、よりダイナミックな目標設定を期待したい。</p>

卒業生・後援会連携室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>当部局はステークホルダーという括りで似て非なる複数組織の対応を担当している。各行事・業務はパラレルに進められるものであり、かつ行事の規模が大きいことを考えれば、業務の難易度は高いと言えよう。その中で年度目標を具体的に立て、それをほぼ達成できたことは大いに評価できる。特に募金戦略を形にしたこと・法政フェアの実施体制を確立したこと・父母懇談会の運営方法（ツール）の改善は、目に見える形で結果を残しており、目標管理制度の手順の面でも評価できる。</p> <p>一方、未達成となった「スポーツ奨励金」「後援会支部運営マニュアル」は、ともにステークホルダーの要望が高いものと思われる。「事務組織の基本・行動指針」に照らしても優先して力を傾注すべきではなかったかと思われる。特に「スポーツ奨励金」については報告書にも未達成の理由や経緯が見当たらず、今後の取組が待たれるところである。</p> <p>なお「新卒業生組織」への体制づくりについて、目標に対する達成度 A について疑義はないが、今回の卒業生組織の変更がこれまでにない規模なものとなることを考えると、当部局にもより大きな支援が求められることを今後は想定していただきたい。</p>

2013 年度目標に関する所見
<p>まず手順として、「ビジョン」の中で当部局が当たるべき項目について網羅しており、目標設定の仕方は評価できる。</p> <p>ただしその設定した内容については以下を指摘したい。</p> <p>オレンジ CAMPUS カード会員新規加入の目標設定「1,000 人」は「定量的目標」の通りであるが、昨年・一昨年の実績から考えるとかなり難易度の高い指標設定と思われ、今設定されている方策の他にも工夫が必要であろう。</p> <p>なお前年度未達成となった「スポーツ奨励金」「後援会支部運営マニュアル」が設定されていないが、ステークホルダーの要望が依然高いようなら、継続してこれに当たるべきだと思われる。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
<p>2012 年度における目標設定はその達成度を見ても適切であったと言える。前述した通り、ビジョンとの整合性、達成度を示す定量指標の使い方も適切である。</p> <p>ただし、当部局はステークホルダーと直接関わりを持つ部局であり、またそこへ期待されるものも大きなことから、今年度設置している目標についてより具体的な指標と計画、いわゆるスキームの構築を求めている。当部局にはそれだけのことができるダイナミクスがあると期待している。</p>

人事部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>人事諸制度の見直し、部・課目標制度の推進については、適切な手順を経て目標を達成したことが報告から読み取れる。総長室との連携も、今後「ビジョン」を実現するために重要な段取りであり、人事部がこの部分を担うことで全学での取り組みが進むと考えられ、評価したい。</p> <p>2011 年度の法定外労働時間超過者の減少に続いて、2012 年度も時間外が減少したことは評価できる。これがどんな施策によるものなのか「理由を分析予定」とあるが、ぜひ 2013 年度の課題（目標）としていただきたい。</p> <p>なお前年度も指摘されているが、目標の達成・未達成について「実施・非実施」だけではなくプロセスや障害などについて記述が欲しい。また時間外の減少が総時間数なのか平均なのか、部局と個人のどちらにフォーカスを当てているのか、この報告では判らないなど、記述の不足を感じる。未達成の目標もやや多く、またその報告が簡略に過ぎるように思われる。継続の可否についての判断がわかるような記述を求めたい。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>ビジョンで当部局に課せられたものに対して、セグメントごとに適切な設定ができている。ビジョンに掲げたものを組織として実現するためには、構成員がそれを理解し、必要なスキルを身に付けるべきである、という視座に立った目標設定であり、適切なものと言える。</p> <p>ただし、その構成員を直接育成するのは各部局であるとはいえ、人事部が直接取り組む施策が少ないことは気になる点であり、積極的な施策の検討・実施を望みたい。例えば時間外削減の目標についての「増加要因の分析・対策」は、検討するだけでなく実施・敷衍することを目標としてもらいたい。</p> <p>なお前年度から継続して目標設定されている他大学との合同研修について、前年度の目標達成度は A であるが、研修効果の検証がないままに施策・目標とするには疑問が残る。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
<p>当部局が他部局と違い、事業の主体となって目標達成をすることよりも、他部局の活性化や構成員のスキルアップを促すことが役割であるという特殊性から、目標設定およびその達成が困難であることは理解</p>

できる。そうした中で具体的な達成指標を複数設定し年度目標に掲げていることは大いに評価できる。
ただし、部・課目標制度の推進母体である部局として、目標設定・年度報告について適切な記述を行うことも心掛けて頂きたい。

経理部

2012年度目標の達成状況に関する所見

年度評価において具体的な数値をあげている点は、評価方法として適切であるが、その記述された数値が、自己評価としての達成レベルでどれくらいの割合に達しているのか、達成度の記載が見受けられない。目標2のように「難易度A」のもので「実績1%」となったことに対して、自己評価ではどの程度にとらえているかの記述が欲しい。

なお目標設定および評価の手順については、前述した通り具体的な数値や改善項目の達成指標が記載されており、適切な手順を踏んでおり評価できる。

また特に評価したい事項として、当該年度には会計検査院の实地検査があり、目標設定には明示されていないが実質的にはこれが目標3を達成していることの検証になったと言えよう。实地検査の結果から見て、目標3に挙げられた各項が適切に行われ実績を上げたことは間違いない。

2013年度目標に関する所見

各目標とも、前年度の達成度合いや展望と合致しており、適切であると言える。

「目標4」の「重点事業の報告書による効果分析」については、目標達成に有効な手段と考えられるので、「重点事業報告書」がより精緻なものとなるようフォーマットの検証も考えて頂きたい。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

帰属収支差額比率の低下により、将来計画とそれを踏まえた財政運営が求められているが、Aセグメントに挙げた【目標1】がその対応と考えてよいか。「指摘」に対応を図っていることが判るような記述の仕方が欲しい。

総評

困難な環境において健全な財務体制を求められる当部局のミッションは、きわめて難易度の高いものである。またこれらのミッションは自部局内で完結するものではないだけに、指標に合理性が求められるとともに、他部局の理解と協力が不可欠である。その点、目標設定については合理性があり、適切な目標を掲げていることは評価できる。これに加えて、専門性の高い当部局の業務について、大学の組織全体が理解できるような取組・努力を当部局に求めたい。

前年度のシーリングや今年度も継続して行われる重点予算についての検討は、全部局がその意図を理解して進めなければ効果があげられないものであることから、当部局には、大学財政に関する説明・啓発の活動も、部課全体の取組とするよう求めたい。

環境保全本部

施設部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。 2012 年度については、川崎グラウンドの案件を除きすべての目標が、設定どおり着実に達成されており、業務管理が適切になされているものと評価できる。 前年度の評価で指摘のあった、目標設定に関する表記の曖昧さも、「何を」「いつまでに」「どこまで」完了させるかといった記述になっており適切であるが、達成度の記入がないため自己評価が不明である。
2013 年度目標に関する所見
各目標は「ビジョン主要項目・定量的目標」に対応しており目標設定の手順として適切である。各目標とも具体的な内容を記してあり、計画の着実な履行を心掛けていることが各目標設定で窺える。ただし B セグメントの目標 3 については、「近隣住民との共生」が目標であれば、「スケジュール通り進めるために近隣住民との共生を図る（もしくは“近隣住民の理解を得る”）」と記述した方が良い。 なお、これらの計画・実施自体が適切であったかの検証やフィードバックも重要である。当部局にはできればこの点もミッションに含めて目標設定を考えて頂きたい。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
教育研究等環境の適切性の検証を、担当部局ごとの検証ではなく、全体の検証体制を構築して行うことを求められているが、これについての目標設定が見受けられない。
総評
当部局の業務としては建物・設備の施工・調達を、計画に沿って進めていくことが基本であると思うが、「ビジョン主要項目・定量的目標」で掲げられている施設・設備の充実については、当部局が計画の提唱を含めてリーダーシップをとってもらうことを求めたい。目標設定に当たっても、このことをできるだけ勘案していただきたい。

事業室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
年度目標に対する達成度はいずれも高く、実績として大いに評価できる。特に委託業務の仕様見直しによるコスト減や自販機導入による増収など、当部局ならではの企画・実施であり、特性を活かした部局としての行動は高く評価したい。ただし、各目標に対する達成度の記載が見受けられないため、自己評価としてどのレベルかが判らない。この記述を求めたい。目標設置や達成度の評価の手順については、規模や具体的な内容が記述されており適切である。 なお、当部局の柔軟性や、企画提案の及ぶ範囲が広範であることを考えると、尚一層、目標設定を高く持つことを望みたい。部局横断の提案ができる部局であることの自覚を持っていただき、組織に貢献できる施策をさらに企画・実施していただきたい。
2013 年度目標に関する所見
目標設定の手順は適切であるが、1～4 までの目標は前年度に大きな実績を達成しており、今年度に更なる実績があげられるとは少々考えにくい。 新規の目標である「教室貸与規程の改定」は、学内外に運用ルールの公正さを示すことで、間接的に大学の評価を向上させると考えられ、適切な設定と言える。 ただし前年度の状況に対する所見でも述べた通り、当部局には組織全体へ貢献できるダイナミクスがあると考えられる。もう少し高レベルの、もしくは別のチャンネルでの目標設定があつて然るべきと考える。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評

当部局には、単なる管理部局として業務・目標の設定をするのではなく、いわゆる民営方式による業務改善を組織全体に啓発する存在として目標設定を考えて頂きたい。その手法をモデルとして示すことで、組織全体へ貢献できるダイナミクスが当部局にはあると考えられる。

環境センター

2012 年度目標の達成状況に関する所見

目標ごとに具体的な達成指標を掲げており、その成果も簡潔に記述されているなど、適切である。ただし「環境サポーターの組織化」について、2つの企画が実現したことを評価の対象とあげているが、今後の企画運営の継続のためにも、そのプロセスについて内容を記述し、自己評価をする必要があるのではないかと。

また「他キャンパス・付属校との交流会」については、小金井キャンパスでの実績は評価できるが、付属校での実績がない。1年度にいずれか1つでは少々物足りなく感じる。当部局は全組織への啓発がミッションであることを考えれば、もう少し活動していただきたい。

なお各目標・項目が当部局のミッションとどう関わりがあるのかが見えにくい。目標は「～のため～を図る」とし、そこに加えて達成指標として「〇〇を●回実施する」と記述した方が、当部局のように企画が多岐に渡る部局の場合、判りやすいと思われる。大内山庭園の事例など大変評価できる実績であるので、ミッションとの位置づけを明らかにするような記述が欲しい。当部局のような啓発活動をする部局にとっては、こういった報告を通じて他部局の理解を促進することも意識してみてもどうか。

2013 年度目標に関する所見

「講演会・シンポジウムの実施」は前年度も実績があるので、目標値として「年1回（以上）」よりはさらに上の目標設定を求めたい。

その他、「動員数を増やす」「来場者数を増やす」は前年度比で増というよりも、その取り組みとしてどれくらいの人数が適切な目標値であるのか示す必要がある。現状が「少ない」のか「適切だがさらに増やしたい」のかはっきりしない。規模としてこれくらいを望みたいという数値設定が必要である。

なおキャラクターグッズの売り上げ増（への寄与）が挙げられているが、前年度目標達成状況への所見でも述べたとおり、当部局のミッションとどう関わっているかの記述が欲しい。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

環境保全に関するさまざまな活動は、その成果が学生を含めた本学構成員全員の行動にかかっており、当部局の企画・運営だけで成果を挙げられるものではない。そのため構成員の意識の醸成・改革が必須となるのだが、そのための啓発こそが当部局のミッションと言えよう。

部・課目標の設定および自己点検・評価結果の公表が、当部局のミッションや指針を組織全体に示す機会となっていることにもご留意いただきたい。

教育支援本部

学務部

2012年度目標の達成状況に関する所見
教育研究組織として適切に運営されるよう様々な目標を課し、当該年度は着実に履行実績を積み上げ、全体的に高い達成度を挙げたことは評価できる。達成度を低く評価している項目もあるが、課の中間報告等も参照した結果、未着手によるものではなく、過程において様々な取り組みがなされたうえでの結果であり、結論が出た点は評価に値するであろう。 「ステークホルダーの満足度向上について」は各課具体的な取り組みを行なっている。中でも、年度末には離職者・留級者等の統計・分析資料が詳細なデータとして纏められており、今後それらが実績として取り組んだ成績不振学生との面談等に活かされるほか、各学部で詳細な検討を行い学生の満足度向上の一助となることを期待したい。
2013年度目標に関する所見
昨年度の目標達成状況を受けて、達成度の低かった目標項目のほか、新たな目標も掲げられており、全体として適切である。今年度掲げた目標も多岐に渡っている。「英語学習に意欲ある学生のための学部横断的英語教育プログラムの整備」や「公認会計士講座の充実と合格者数の増」の新たな目標については“あるべき姿”に貢献するため着実に実行することを期待したい。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
認証評価における指摘事項が2項目あったが、そのいずれも改善に向け明確な目標が掲げられており適切である。
総評
市ヶ谷キャンパスの7学部を抱え課題が多岐にわたるなか、目標達成に向けて様々な取り組みを行っており、意識の高さは評価できる。今年度以降も、多くの課題が課されるが、これまで同様に教員と連携を図り課題を解決することを期待する。

入学センター

2012年度目標の達成状況に関する所見
情報発信強化は本学が抱える重要な課題の1つであり、その成果如何によっては志願者数に大きく反映するため適切な対応が望まれる。そのうえで、2013年度入試において志願者数目標90,000人に対して、結果が僅かに及ばなかったが、他部局との連携によって着実に実行に移されていることは評価できる。 一方で、「入学者数の適切な管理」が結果的に目標未達になったことは、財政面に与える影響という側面から見れば軽視することも出来ないであろう。しかしながら、既に原因分析によって今後の課題は明確になっており、今後着実に実行することを期待したい。 「入学試験実施に関わる事故解消」については、大学の信用に大きく影響するため目標どおり事故ゼロの実現が望まれる。出題事故件数が前年度比減少に転じたことは評価できるが、文部科学省への報告事件数が“看過できない状態”と評価するレベルであるのならば、対策について今後十分な検討を行なっていただきたい。
2013年度目標に関する所見
昨年度の目標達成状況を受けて、取り組むべき具体的策を新たに追加するなどしており、全体として適切である。これらの施策を着実に実行し、目標に掲げた2014年度入試の志願者数98,000人、2015年度以降の100,000人台を実現することを期待したい。 また、今年度はT日程入試併願制度の導入にあたり、確実に実施することを目標に掲げている。この制度導入が志願者数増に繋がったとしても、事故なく確実に実施されなければ大学の信用に与える影響も小さくないため、目標達成に努めていただきたい。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし
総評
入学センターは大学の顔として重要な役割を担っている。ゆえに、出題事故など問題が発生すれば大学の信用にも大きな影響を与える。現状のスキームを見直しながら、新しい入試制度に対応するのは容易ではないが、確実に目標を遂行することを期待したい。

多摩事務部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
部として5つの目標を掲げ、そのいずれも達成度がA評価となったことは評価できる。しかしながら、昨年度の報告書の「2011 年度目標の達成状況に関する所見」にも類似の評価記述を受けたように、より詳細な成果報告を記載することをお願いしたい。例えば、「専任職員の年間時間外業務時間の削減」のような数値での評価が可能な目標は、具体的な実績数値を列挙することで経年での評価も可能となる。各課の成果報告を参照すると、詳細かつ具体的に記述されている項目も多く、これらの成果が埋もれることがないよう、次年度以降配慮をお願いしたい。
2013 年度目標に関する所見
昨年度の目標達成状況を受けて、更なる実施項目を追加した目標設定であるので適切である。 しかしながら、部の目標が全体的に抽象的な記述に終始している。例えば、前年度に引き続き「時間外業務時間の削減」を挙げているが、上記の目標の達成状況に関する所見に具体的な削減時間数や削減割合を各課から集約し、数値目標とすることで実績評価が容易になると考えられる。また、「路線バス運賃補助に関する検討」を挙げているが具体的に何を検討するのか記載がないため、達成基準の評価が曖昧になる可能性がある。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
多摩事務部は総務課の法人部門、4 学部の学部事務課の教学部門が併存している。そのため、目標の設定については、本来は部の目標を設定した後に課の目標に落としこむべきであるが、当事務部においては課目標を設定したうえで部目標として集約しているのが実態ではないかと推察する。実際に、各課においては具体的かつ明確な目標設定がされているが、それらが部目標として十分反映されているとは言い難い。そのため、各課が掲げた目標を、どのように部目標として収斂させるかが課題となるであろうし、部全体を俯瞰して目標の適切性を判断する体制の構築も必要であろう。部目標に対する評価が適切に行われるためには、適切な部目標の設定が不可欠であり、この点に関して検討をお願いしたい。

小金井事務部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
全体として目標を着実に実行に移し、その成果が出ていることは評価できる。中でも、「理工系学部の認知度向上」については、単年度の取り組みで顕著な成果を得られるものではなく、複数年度に渡る地道な取り組みが必要であろう。年度末における成果は実行による効果の兆候として評価でき、次年度以降の取り組みに期待したい。 時間外削減の取り組みでは、部全体として前年度比 16.8%の削減を実現できたことは大いに評価できる。次年度以降は課題となった各担当間の業務の標準化に努め、前年度未達成項目の完遂を期待したい。また、「決裁手続きの厳格化」については、改善が図られていることは評価できるが、監査の指摘事項であり、次年度以降も徹底した対応に務めていただくことは勿論であるが、早期解決に努めていただきたい。
2013 年度目標に関する所見
「決裁手続きの厳格化」に関しては、昨年度の目標達成状況を受けて、教職員向マニュアルを作成したうえで学内規程遵守の徹底を図ることが新たに掲げられており、この点については評価するとともに着実

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
指摘事項なし
総評
<p>法令順守の見地からも、監査室の役割は非常に重要で、適切な目標設定に基づき効率的・計画的に運営していく継続的な努力がなされていることは大いに評価できる。</p> <p>監査室が継続してきた努力によって培ったノウハウは、他部局の業務にとって有為であると考えられるため、今後は「(良い・悪い／成功・失敗) 事例紹介や注意喚起」等の積極的な情報発信や、昨年度研究開発センターとの間でみられた他部局との協力体制がより一層拡充されていくことを期待する。</p>

<p>な実行を期待したい。</p> <p>また、「危機管理体制の構築」の目標の中で、「薬品管理システム構築に向けて未登録者への注意喚起を促す。」とあるが、監督官庁等から病原性微生物等の保管・管理の徹底が強く求められていることもあり、これらの対応も含めて取り組まれることを期待したい。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
<p>掲げた目標を着実に履行しようとする取り組みは評価できる。それら目標の実現には、成果報告にも記載されているように、“学部執行部”との緊密な連携が必要不可欠であり、今後も良好な関係を構築しつつ目標の実現に取り組んでいただきたい。</p> <p>また、他キャンパスと比べ、小金井事務部は理工系学部を抱える部局として危機管理に関してもより一層適正な対応が求められるため、教職員の危機管理に対する意識の涵養に務めていただきたい。</p>

大学院事務部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>部の年度末報告に年度の各目標に対する達成度の記載が見受けられない。</p> <p>目標としては、全体として目標を達成したとは言い難いものの、個々の目標に対して着実に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>「大学院全研究科の定員充足率を上げる」目標に対しては、広報活動に重点を置き注力するほか、専門職大学院に関しては「専門職大学院の修了生を含む院生への支援を行う」目標と絡め様々な策を講じており、その点については大いに評価できるものの、結果から見受けられる効果が限定的であることは否定出来ない。次年度以降の目標策定に際しては更なる検証のもと作成することを期待したい。</p> <p>また、「研究科の事務運営体制の見直し・改善」の目標については着実に取り組んだことにより、一定の成果が出たものとして評価できる。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>下記の所見に記載の通り、認証評価における指摘事項に対して掲げるべき目標で一部見受けられないものがあるものの、その他の目標については前年度の履行状況を加味したうえで、新たな目標も設定されており適切である。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
<p>認証評価の際の「博士後期課程の大学院生に対する奨学金の充実や授業料減免などの更なる経済的な支援策の導入」に係る指摘について明確な目標が掲げられており、適切である。一方、認証評価の指摘事項では、卒業生アンケートの結果を受けて「外国語の授業や活動を通じての能力修得」に対する評価が低いので、その原因を検証し改善することも挙げられているが、その改善に関する目標が見受けられない。目標を定め、改善に取り組むことが望まれる。</p>
総評
<p>新たな研究科の設置が予定される中で、既存の研究科も含めて適切な運営を目指し様々な課題を課し、成果をあげていることは評価できる。</p> <p>しかしながら、目標が未達となっている定員充足などについては、過去の検証を行ったうえでの目標を策定する必要があるであろう。教育・研究部門における課題は事務部門だけで解決できないものも多く、教員たちとの緊密な連携が不可欠であり、定員充足の課題もそういう課題の1つである。今後、教員たちとの連携によって、一層の成果があがることを期待したい。</p>

通信教育部事務部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
目標は全体的に着実に達成されているといえる。

<p>部目標として大きく5つの項目が掲げられているが、そのうち、「通信教育課程の理解」に対する取り組みは職員の能力向上だけではなく、目標達成の意識を部全体で共有するものとして評価できる。また、「入学者の増加」「離籍者の減少」「通教改革の実施」といった目標は単年度だけの取り組みで顕著な成果が挙がるものではないが、目標達成に向け単発ではなく複数の施策を効果的に実行しており、数値的にも改善がみられることから、次年度以降も従来通りの着実な取り組みに期待したい。</p> <p>最後に、「通信教育システム開発の円滑実施」についても、僅かながら課題を残しての目標未達とはなかったものの、取り組み自体は確実に履行されており、2013年度の早い段階での課題解消に努めていただきたい。</p>
<p>2013年度目標に関する所見</p>
<p>目標項目は全体として適切である。</p> <p>2012年度に「通教改革の実施」として掲げられていた目標は、改革における主要項目としての「メディア授業の拡充」と「通教改革の円滑な実施と検証」にセグメント別に分離して掲げられており適切である。また、その他の目標項目についても、実施すべき事項が具体的に設定されており、達成度の評価の観点からも評価できる。</p>
<p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p>
<p>該当なし</p>
<p>総評</p>
<p>当該部が取り組む主要課題は、単年度の取り組みによって即効性のある効果が期待できるものではない。それだけに、現在の着実かつ精力的な取り組みは高く評価できるものである。「入学者の増加」「離籍者の減少」は着実に改善してきている数値を示しており、今後も引き続き成果が現れるよう取り組むことを期待したい。</p>

中学高等学校事務室

<p>2012年度目標の達成状況に関する所見</p>
<p>各目標に対し、概ね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。</p> <p>目標3「法政中高の財政状況が赤字から黒字へと転ずるよう、コスト削減と収入増を図る。」において、学費改定（値上げ）を実施し、収入改善を行っていることは評価できる。今後は、財政状況の改善を学費改定（値上げ）に頼るのではなく、経費削減に向けた努力を期待する。</p> <p>目標4「HP等を通じて情報公開を推進する。」において、ホームページをリニューアルし、受験生やその保護者、進学塾等の受験関連業者が必要な情報へ簡単にアクセスできるようにデザインを工夫したことは、おおいに評価できる。この成果が、法政中高の志願者数増加につながることを期待する。</p>
<p>2013年度目標に関する所見</p>
<p>2012年度の目標達成状況を受けて、2013年度の目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>Aセグメントの目標4「本校生徒の法政大学進学後および大学卒業後の状況を資料化する。」について、2012年度目標にも掲げながら未着手となっており、目標達成に向けた努力を期待する。</p> <p>Cセグメントの目標2「危機管理体制の整備および情報セキュリティ対策の策定」について、2012年度目標にも掲げながら「個人情報管理と漏えい防止」が未着手となっており、目標達成に向けた努力を期待する。</p>
<p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p>
<p>該当なし</p>
<p>総評</p>
<p>ビジョン実現のための定量的目標に掲げられている生徒アンケートでの目標満足度の達成や高大連携の検討・実施について、新たに目標に掲げたことは、評価できる。</p> <p>引き続き、財政状況の改善に向けて努力することを期待する。</p>

第二中・高等学校事務室

2012 年度目標の達成状況に関する所見

各目標に対し、概ね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。

一方、各目標に対し、年度末報告において、達成度評価の記述が見当たらない。

目標 1 「新学費の決定。中長期財政試算をもとに今後 10 年間の学費を決定する。学則改正案を立案する。」において、中長期における二中高の支出構造の変化を可能な限り想定した中長期財政試算に基づき、新学費設定のシミュレーションを行っており、評価できる。

目標 2 「新校舎完成を機に川崎市と一時避難所の協定を締結する。」において、川崎市との協議や地域防災対応への地元住民に対する説明会を実施するなど、2016 年度の協定締結に向けて準備が進んでいることは評価できる。地域貢献の観点からも協定締結に向けて努力してほしい。

2013 年度目標に関する所見

2012 年度の目標達成状況を受けて、2013 年度の目標が掲げられており、全体として適切である。

A セグメントの目標 1 「二中高中長期財政計画の精度を上げる。収支の内容についてさらなる検討を重ね精度の高い財政計画を立案し理事会へ提案する。」において、中長期財政計画の精度が上がれば、将来にわたる財政状況の把握が容易になるため、目標達成を期待する。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

2016 年度中学・高校同時男女共学化・新校舎完成に向けての改革推進が業務の中心になっていると思われる。引き続き、二中高の改革に向けて努力してほしい。

ビジョン実現のための定量的目標に掲げられている生徒アンケートでの目標満足度の達成、高大連携の検討・実施、付属校出身者の大学在学中・卒業後の状況の資料化などの目標が見受けられない。再度検討が必要ではないか。

女子高等学校事務室

2012 年度目標の達成状況に関する所見

各目標に対し、概ね達成されており、目標達成に向けた努力もうかがえる。

目標 1 「入試広報活動の強化」において、「女子高の魅力リーフレット」を昨年よりも 3 種類多く作成し、各種イベントや学校説明会で配布したことは、評価できる。継続的に工夫して入試広報活動の強化を実施することを期待する。

2013 年度目標に関する所見

2012 年度の目標達成状況を受けて、2013 年度の目標が掲げられており、全体として適切である。

A セグメントの目標 1 「オープンスクールや学校説明会への参加者数や、受験生の増加を 2012 年度に比較し 1.5 倍の増加を目指す」において、ビジョン実現のための定量的目標に関連しており、目標達成を期待する。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

ビジョン実現のための定量的目標に掲げられている生徒アンケートでの目標満足度の達成、高大連携の検討・実施、付属校出身者の大学在学中・卒業後の状況の資料化などの目標が見受けられない。再度検討が必要ではないか。

学生支援本部

学生センター

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。</p> <p>年度目標 1・4・6・7 については達成もしくは達成に向けた努力が継続的になされており評価できる。特に安全な大学祭の実施に成功されたことは大いに評価できる。今後の継続を期待する。</p> <p>年度目標 2 の (4)「東日本大震災ボランティアの継続」については、中間報告と年度末報告に記述が見られないため、達成状況が不明である。</p> <p>年度目標 3 については、サークルサポーターの組織強化と役割の確立を目標としているが、中間報告・年度末報告でスタッフ数増加の記載はあるが、その他の記述が曖昧で当該目標に対して適切に記述されていない。</p> <p>年度目標 5 の (1) 学生相談における「人的体制の確保」については、小金井キャンパスにて着実に努力されていることが評価できるが、他の 2 キャンパスについての進捗状況等の記述がなされていない。</p> <p>また、市ヶ谷学生生活課の年度目標 1 (3) について、「学生スタッフの育成」と「コミュニティの活性化」を目標としているものの、中間報告と年度末報告には「学生スタッフ数は現状維持」との記載にとどまっており、当該目標に対して適切に記述されていない。また、多摩学生生活課の年度目標 1 (1) および 5 (3) について、年度末報告で「実施できなかった」「取り組んでいない」等の記述があるが、この理由について記述することが必要ではないか。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>昨年度の目標達成状況を受け、継続すべき目標と新たな目標を掲げられており、全体として適切である。</p> <p>昨年度の年度目標 6 の (4)「白馬山荘の今後について」に関する目標が見受けられない。昨年度末の段階では未達成であり、2013 年度も継続して目標設定し、取り組むことが必要ではないか。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
<p>該当なし</p>
総評
<p>キャンパス内外に発生する多くの目標に積極的に取り組み、その実現に向けて継続して努力していることは大いに評価できる。達成すべき目標は多岐にわたり容易に解決することは困難であるが、途中で目標設定を放棄することなく継続して取り組まれることを望む。</p> <p>個々の目標に対する年度末報告については、当該目標の進捗状況や未達成の原因・理由等を具体的に記載し、次年度への継続目標とした際のより具体的な課題とすることが望まれる。</p>

保健体育部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。</p> <p>体育会所属学生や保健衛生に対する多岐にわたる課題への継続的な努力がなされていることは評価できる。</p> <p>年度目標 2・3・4 に対する年度末報告で、「運用を図った」「理解を深めるようにした」「情報提供を行った」等の記述があるが、結果としてどのような成果・効果が得られたかの具体的な記述が見られない。</p> <p>保健課年度目標 2・3 については、順調に改善が図られていることは評価できるが、長期的に取り組んでいくべき課題であり、今後の継続課題や問題点を引き続き検討することを望む。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>昨年度の目標達成状況を受け、継続すべき目標と新たな目標を掲げられており、全体として適切である。</p> <p>A セグメント年度目標 1「嘱託期間満了後の継続採用」については、労働契約法の改正に伴い人事部との協議が必要ではないか。</p>

<p>D セグメント年度目標 3「進路先情報の回収率アップ」については、現状の回収率を踏まえた具体的な達成指標（回収率）や施策の設定が必要ではないか。達成度の検証が困難である。</p> <p>昨年度の保健課年度目標 3「よりよい教育現場、職場環境の構築」に関する目標が保健課を含めて見受けられない、今後も継続的に取り組むことが必要ではないか。</p>
<p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p>
<p>該当なし</p>
<p>総評</p>
<p>体育会所属学生のみならず、在学生・教職員の全てを対象とした取り組みを継続して努力していることは大いに評価できる。</p> <p>個々の目標に対する年度末報告については、当該目標に取り組んだ結果、得られた成果や新たに生じた課題等についても記載し、次年度への継続目標とした際のより具体的な課題とすることが望まれる。</p>

キャリアセンター

<p>2012 年度目標の達成状況に関する所見</p>
<p>各年度目標が具体的かつ定量的に設定されており、また目標に対する達成状況も同様に報告がなされていることは評価できる。</p> <p>年度目標 1・2・3 については、結果として未達成となっているが、年度末報告では結果数値のみの記載となっており、未達成の原因や理由等の分析結果を合わせて記載することが必要ではないか。</p> <p>年度目標 5・6・7・8 については、職員のスキルアップ、新たな施策の策定に部局全体で積極的に取り組んでおり、大いに評価できる。但し、目標達成により得られた成果や新たに生じた課題等についても分析し、記載することが必要ではないか。</p>
<p>2013 年度目標に関する所見</p>
<p>昨年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>定量的目標については、昨年度実績を踏まえて見直ししているが、目標数値の妥当性が不明である。また、達成に向けての具体的な方策やプロセスについても目標設定し、記載することが必要ではないか。</p>
<p>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</p>
<p>全学として改善が望まれる指摘事項 6. 学生支援において、「進路支援について、3 キャンパスにおいて差異のないサービスを実施することが望まれる」とあったが、当該指摘事項に対して、その改善に関する目標が見受けられない。目標を定め、改善に取り組むことが望まれる。</p>
<p>総評</p>
<p>就職・キャリア支援に関する取り組みを継続して努力していることは大いに評価できる。また、所属員のスキルアップや新たな施策策定に毎年度継続して積極的に取り組んでいることも大変評価でき、是非今後も継続することが望まれる。</p> <p>各目標に取り組んだ結果、得られた成果や新たに生じた課題等についても検証し、次年度以降の継続目標としてより具体的に目標設定することが望まれる。</p>

国際学術支援本部

研究開発センター

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>目標は全体的に着実に達成されているといえる。研究所の削減、不正経理防止対策、研究倫理規程の制定という、大学にとって重要かつ難易度の高い目標を着実に達成していることは大いに評価できる。</p> <p>年度目標 2 の②「発注システム、検収システムの構築」については、未達成となり「将来への課題」としているが、不正経理を確実に防止する上で将来ではなく、早急にシステムを構築することが必要ではないか。</p> <p>年度目標 3「研究倫理規程の制定」については、2011 年度から継続して取り組んでいる目標であり、あと一歩で制定の段階まで到達している。最終決定に至らなかったことは残念であるが、2013 年度に結実することを期待する。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>昨年度の目標達成状況を受けて、新たな目標を掲げられており、全体として適切である。</p> <p>A セグメント目標 1・2・3 については、「検討する」「考える」「模索する」「刺激を与える」等の記述が曖昧で具体性に欠ける。達成度の検証が困難ではないか。年度末報告では、進捗状況や得られた成果等の具体的な記述が望まれる。</p> <p>A セグメント目標 4 (目標 1)「研究者データベースの更新者数の増加」については、現状の更新者数を踏まえた具体的な達成指標の設定が必要ではないか。達成度の検証が困難である。</p> <p>B セグメント目標 1 (目標 5)「研究倫理規程の整備」については、制定への最終段階に入っていると思われる。施行までの残る課題・プロセス等を具体的に目標に設定し、確実に完了することが必要ではないか。</p> <p>昨年度の年度目標 2 の②「発注システム、検収システムの構築」に関する目標が課目標を含めて見受けられない。昨年度未達成であり、早急に取り組むことが必要ではないか。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
<p>教育研究機関にとって重要かつ困難な課題に関する取り組みを継続して努力していることは大いに評価できる。なかでも、外部資金獲得による研究資金の拡充は研究活動に大きく寄与することになるため、今後も継続して積極的に取り組まれることを期待する。</p> <p>各目標に取り組んだ結果、得られた成果や新たに生じた課題等についても検証し、次年度以降の継続目標として取り組んでいくことが望まれる。</p>

国際交流センター

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。</p> <p>留学生確保のために門戸を拡大しようとする継続的な努力がなされていることは大いに評価できる。</p> <p>年度目標 1「日本語学校等への訪問実施」については、中間報告と年度末報告に「30 校以上」と記載されており、積極的な訪問等を実施したことが評価できるが、具体的な実績（件数）の記載が必要ではないか。また、行った広報活動の内容・効果についての具体的な記載が必要ではないか。</p> <p>年度目標 2「留学生の就職支援の充実」については、「支援ネットワークへの新規加入」が新たな施策として達成されたことが評価できるが、新規加入による効果についての記載が必要ではないか。</p> <p>年度目標 6「事務分掌の再定義」については、組織変更に伴う連携強化や関連学部との調整に対する努力がなされていることは評価できる。当該年度の活動により得られた成果や今後の課題を明確にし、今後も継続的に取り組むことが必要ではないか。</p>

2013 年度目標に関する所見
<p>昨年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>年度目標が具体的かつ定量的に設定されており、達成度の検証も可能な設定になっており評価できる。</p> <p>Cセグメント年度目標 (1)「担当者の能力向上と業務の効率化」については、目標の達成に向けての具体的な方策等について記載することが必要ではないか。達成度の検証が困難である。</p> <p>Dセグメント年度目標について、部局内業務分掌の再整理に留まり、昨年度年度目標 6「関連学部との事務分掌の再定義」に関する目標が見受けられない。昨年度末の段階では未達成であり、2013 年度も継続して目標設定し、取り組むことが必要ではないか。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
<p>留学生数の増加のための地道な活動や学内諸制度の整備に積極的に取り組み、その実現に向けて継続して努力していることは大いに評価できる。</p> <p>グローバル人材の育成は本学にとって重要な課題であり、SA制度の担当部局である当部局の果たすべき役割は大きい。関連学部との綿密な協議を継続し、より一層の制度の安定と拡充がなされることを望む。</p>

総合情報センター事務部

2012 年度目標の達成状況に関する所見
<p>年度末報告に各年度目標に対する達成度の記載が見受けられない。</p> <p>各システムともに障害をゼロにはできなかったものの、障害に対する原因究明や対応方法の検討がなされていることは評価でき、各目標は全体的に着実に達成されているといえる。</p> <p>年度目標 1 (2) について、「ウイルス、情報漏えいなどのセキュリティに関して、備えや啓蒙を図り、安心安全なシステム運用をはかる。事故をゼロにする。」との目標が設定されているが、事故発生後の対応については検討されており評価できるが、事前の備えや啓蒙に関しての取り組みについての具体的な記述が見受けられない。</p> <p>年度目標 3 (2) について、「情報センター以外の基礎的業務知識の習得」との目標が設定されているが、中間報告と年度末報告に当該目標に関する記述が見受けられない。具体的な実績や進捗状況の記述が必要ではないか。</p>
2013 年度目標に関する所見
<p>昨年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。</p> <p>諸システムの安定運用、セキュリティ対策、Net2010 の中間見直し、来るべきシステム更新の準備等、インフラとして安定的に維持されて当然と思われる課題に対して目標設定し、継続的な努力をしていく姿勢は評価できる。</p> <p>また、人材育成についても当該部局の専門的スキルのみならず、他部局業務の基礎的業務知識の習得を目標としていることは大いに評価できる。一方で、どのようにして他部局業務の基礎的業務知識を習得するか、また、何をもちて修得したか等の達成指標や具体的施策の記述が望まれる。達成度の検証が困難である。</p> <p>過去の目標に設定されていた時間外労働時間の削減について、一部の課を除き当該目標に関する記述が見受けられない。各システムの大規模更新時期ではないものの、未だ高水準であると推察されるため、継続して目標設定し、取り組むことが必要ではないか。</p>
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
<p>組織のインフラとして各システムを安全に、かつ安定的に運用していくことは非常に重要であり、その安定的に稼働させる努力は万人に理解されるものではないにもかかわらず、その実現に向けて継続して努</p>

力していることは大いに評価できる。

一方で、システムの維持・管理や更新時に必要となるコストが膨大であることも推察できる。年度目標に「コストとのバランスも重要」とあるが、いかにして低コストで望むべき目的を達成できるか、についても重要課題のひとつとして取り組まれることを望む。

図書館事務部

2012年度目標の達成状況に関する所見

目標は全体的に着実に達成されているといえる。

年度目標 1「リポジトリ登録数」については、定量的目標を達成したことは評価できるが、目標の達成に向けてどのような施策に取り組んだ結果なのか等の具体的な記述が望まれる。また、2013年度末までに累計6,000件以上の件数を継続的な目標としているが、当該目標に対する進捗状況についての記述が見受けられない。

年度目標 2-1「ゼミサポート・ガイダンスに注力」については、情報リテラシー教育推進のための地道なガイダンス活動等を継続的に努力し、高い評価を得ていることは大いに評価できる。課目標によるとキャンパス毎に実施率（実施ゼミ数／総ゼミ数、受講者数／収容定員数、等）を目標指数として設定しているが、当該目標指数には共通性がなく、個々の設定根拠や妥当性、取り組んだ具体的な施策が不明である。

年度目標 2-2「ラーニングコモンズの開設」については、多摩・小金井への設置に向けて着実に努力され、実現されてきていることは大いに評価できる。多摩キャンパスについては、2013年度の開設が実現すること、既設置キャンパスについては今後の内容充実に継続して取り組まれることを期待する。

2013年度目標に関する所見

昨年度の目標達成状況や実績を踏まえて、新たな目標が掲げられており、全体として適切である。

年度目標 2「ゼミサポート・ガイダンス」については、キャンパス毎の独自性があるためキャンパス（課）毎の目標設定となることは理解できるが、昨年度目標と同じ数値目標を設定している課が多く、実施率増加のための具体的施策等の記述が見受けられない。目標とする実施率の設定根拠や実施率増加への具体的施策を検討し、記載することが必要ではないか。

年度目標 4 (1)「サンクンガーデンの有効利用」については、記述が抽象的かつ曖昧である。達成度の検証が困難ではないか。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

認証評価における指摘事項（「小金井キャンパス図書館への専任職員の配置」「市ヶ谷田町校舎の図書閲覧室の図書資料」）に対し、その改善に向け明確な目標が掲げられており、適切である。

総評

教育・研究・学術の基礎となる図書館は、本学学生・教職員のみならず学外の一般社会に対してもサービスを提供しており、大学にとって重要な役割を担っているといえる。学内外に対してのサービスの充実に関する取り組みを継続して努力していることは大いに評価できる。

より一層のサービス向上、利用機会の拡充のために、待ちの姿勢ではなく、図書館側から内外に積極的に働きかける方策や所属員の人材育成等、新たな施策を打ち出されることを期待する。

地域研究センター事務室

2012年度目標の達成状況に関する所見

目標はすべての項目で達成できたものと評価できる。

特に「研究支援」の目標で掲げた外部資金の獲得については、目標は1件以上の獲得であったが、結果の8件2,489万円の獲得は特筆すべきである。また、外部資金として獲得した調査・研究等のすべての事業が、別の目標として掲げた「教育支援」の学生の修練機会の提供に結びついていることも評価できる。

しかしながら、中間報告、年度末報告いずれも結果についての記載のみで、結果に至るまでにどのような取り組みを行ったのか、どのような点について事務として寄与したのかが一切触れられていないので

不明である。次年度以降の報告においては、結果のみの記載ではなく目標達成にむけてどのような取り組みがなされたのかについても報告をお願いしたい。

2013 年度目標に関する所見

2012 年度の目標を踏襲した目標が掲げられているが、目標によっては記述が前年度目標にあった数値目標が削除されており、達成度の検証が困難ではないかと思われる。

今年度新たな目標として、研究センターの規程整備があるが、これについてはセンターの適正な運営上必要な事項であるため、必ず実施することを期待する。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

外部資金獲得の成果については高く評価できる。しかし一方で、2013 年度の目標にも掲げているように、研究費の適正支出はコンプライアンス上も重要な課題であり確実に実行する必要があるため、それに関わる教員、職員が適切に連携するよう努めていただきたい。そのうえで、センターが地域研究の拠点としての役割を果たすことを期待したい。

マイクロ・ナノテクノロジー研究センター事務室

2012 年度目標の達成状況に関する所見

部の年度末報告に年度の目標に対する達成度の記載が見受けられない。

目標はほぼ達成されており、達成されていないものについても取り組みを行なっているといえる。

ただし、目標項目「研究センターとして社会連携・社会貢献を果たす」で掲げた「ホームページの内容の充実と更新の継続」について年度末には掲載の遅れが生じている旨の報告があるが、この原因について具体的な記述がないため、次年度以降、未達事項が生じた際はその原因と対策の記載をお願いしたい。

また、文部科学省補助金「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」については、申請は計画通り行ったものの現時点において選定結果が出ていないため目標達成の評価は出来ないが、当該目標に関して事務としてどのような取り組み、もしくは貢献があったのか不明であり、適正に評価を行うためにも、年度末報告においては具体的な取り組みについても記載をお願いしたい。

2013 年度目標に関する所見

2012 年度の目標項目と同様の目標を掲げているが、昨年度の実績を勘案すれば新たな目標を設定することも期待したい。なお、目標設定に際しては具体的な取り組みに関する記述がなく、適切な達成度の検証が困難であるため、達成度の検証ができるよう具体的な取り組みの記載、もしくは目標項目によっては数値的な目標を設定するなど次年度に向けて検討願いたい。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

当研究センターの性質上、その運営には他研究所と比べても多額の資金が必要であろう。そのため、当研究センターには大型の外部資金獲得が求められることになる。2008 年度に採択された文部科学省補助金「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」が 2012 年度に終了し、それに替わるものとして現在新たに文科省に申請中ではあるが、研究センターとして社会連携・社会貢献を果たしつつ、教員と職員が緊密に連携して外部資金獲得に努めていただきたい。

グローバル人材開発センター事務室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
該当なし
2013 年度目標に関する所見
2013 年度目標は「グローバル人材育成推進事業」を推進するために「英語強化プログラム（ERP）の実施」や「全学生が自由に利用できる外国語交流スペース『G ラウンジ』を3キャンパスに開設」など様々な具体的な目標が掲げられており、適切である。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
該当なし
総評
「本学が考える、国際舞台で活躍する自立的で人間力豊かなグローバルリーダー像」である「持続可能な地球社会の構築に貢献できる高い専門性を備え、チャレンジ精神に富み、異文化を理解し、グローバルな視点で考えることができつつも日本人としてのアイデンティティを兼ね備え、高い語学力で世界各国の人々とコミュニケーションを図れる人材」を数多く輩出することを期待したい。 また、「グローバル人材育成推進事業」は、学部を横断する事業であるので、各学部との連携を強化しつつ、目標の達成に向けた努力を期待したい。

ハラスメント相談室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
各目標に対し、達成されており、概ね目標達成に向けた努力もうかがえる。 ハラスメント防止およびハラスメントに対する啓発活動として学生へのハラスメント相談室リーフレット配布や教員への「法政大学ハラスメント防止・対策に関するガイドライン」の配布を工夫して実施しており、評価できる。
2013 年度目標に関する所見
2012 年度の目標達成状況を受けて、2013 年度の目標が掲げられており、全体として適切である。 付属校生徒に関する目標が見受けられない。再度検討することが必要ではないか。
認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見
認証評価における指摘に対し、その改善に向け明確な目標が掲げられており、適切である。
総評
ハラスメント防止およびハラスメントに対する啓発活動は大変重要であるので、今後も継続的な取り組みを期待する。

監査室

2012 年度目標の達成状況に関する所見
目標は全体的に着実に達成されているといえる。 年度目標 1「各部局業務監査の実施」について、全部局の業務監査を計画的に実施し、完了したことは評価できる。 また、「テーマ別監査」については、「検討したが 2013 年度実施計画までにはいたらなかった」とあるが、当該年度の活動により得られた成果や進捗状況、未達成となった理由について記載が必要ではないか。
2013 年度目標に関する所見
昨年度の目標達成状況を受けて、全体として適切に目標が設定されている。 年度目標 1「各部局業務監査の実施」については、全部局の業務監査が監査内容を含めて計画的に設定されており適切である。 また、「テーマ別監査」に関する目標が見受けられない。昨年度末の段階では未達成であり、2013 年度も継続して目標設定し、取り組むことが必要ではないか。